

FirstGlobal メッセージ

siesta

2014.5月号 vol.132

*シエスタとは、スペイン語で『昼寝』の意味です。

リラックスしながらお読み下さい。

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email shinagawa@1gc.jp

URL <http://www.1gc.jp>

今月のトピックス

母のこと2

母はクモ膜下出血でしたが、脳動脈瘤、いわゆる脳にできたコブ4個のうち3個が破裂しました。「クリッピング術」というまさにクリップでそこを留めましたが、残る1個はまだそんなに大きくないからと今も残っています。今後また破裂するリスクは残った状態です。昏睡状態から目を覚ましたのは、倒れてから3日目のことでした。ひとまず安心、といきたいところでしたが、執刀医から一度目を覚まして一旦何事もなかったように会話をするが、そこからまた昏睡状態に入るとのこと。その間に「脳血管攣縮（れんしゅく）」という、母の場合は水頭症の症状が出てきました。いわゆる頭に水が溜まるというものです。ご存知の通り、頭は頭蓋骨で覆われていますから、脳内部を圧迫して、意識が朦朧とする状況が続いていました。途中から意識も戻り、目も開けますが、声をかけても明確に返事がない状態が1ヵ月近く続きました。正直その頃はそのままずっとこの状態が続くのかなとも思いました。そして、2月23日に「シャント術」という、腰に管を埋め込み、管の磁力によって水の流れをよくする手術を受けました。それをきっかけに劇的に様子が変わりました。日を追うごとに明確に会話ができるようになりました。えらいもんやなあ、と感心しましたが、勝負はこれからです。これからどういう戦略を立てていくか？誰にも言いませんでしたが、また自宅で一人暮らしができるにはどうしたらいいか？を中期的な目標として想定しました。今でこそ言えますが、また一人暮らしができるなんてそのときの状態からは誰も想像できませんでした。まず目に飛び込んだのが『デルタレゾナンス』（<http://stroke.deltaresonance.jp/>）という音響ファイルです。木村敏彦さんという、ご自身も脳内出血で左半身が全く動かなくなり、失意のどん底にいた方が「バイノウラルビート」というサウンドが脳刺激効果や不安解消効果をもたらすことを発見し、病床で独自に開発したのが、『デルタレゾナンス』です。木村さんは結果的に2ヵ月で杖なしで歩け、半年後には走ったり、腕立て伏せができるようになったと…。

< next >

高校野球のセンバツも始まり、プロ野球も開幕しました。私自身も今年からまた本格的に野球も復活します。知り合いからはゴルフのお誘いも受けていて、忙しい年になりそうです。

仕事もがんばらんと。